



## 地域と大学を結ぶ新たな窓口を設置

京都府立大学では、本年4月、地域と大学を結ぶ窓口として「京都府立大学地域連携センター」を設置しました。本号では、地域の住民や、NPO、行政、企業等との連携により展開している本学の教育研究活動や生涯学習事業について紹介します。



### ■地域連携センター →P2

私たちが、大学の研究成果と地域のニーズをつなぎます。

右から連携コーディネーター：赤瀬教授、東教授、  
地域連携センター長：築山教授、副センター長：桂  
准教授、連携コーディネーター：藪中准教授



### ■生涯学習事業 →P6

9月20日に本学大学会館、9月27日に宮津市「みやづ歴史の館」文化ホールにおいて、「源氏物語千年記念フォーラム『源氏物語』へようこそ」が開催されました。



### ■行政との連携 →P3

府立大学からも稲刈りに参加しました ～宮津市日ヶ谷でのふるさと共栄活動

## 目次

地域連携センターを設置しました	2	生涯学習事業	6
行政との連携		中学生・高校生との交流事業	7
宇治田原町との連携	3	各学部・研究科の取組	8
ふるさと共栄組織の活動と研究	3	学生奮闘記 地域のホームページを作成	12
平成19年度ACTR成果報告	4	お知らせ	12
産学公連携	5	トピックス	12
ニューフェイス	5		

## 地域連携センターを設置しました!!

センター長 築山 崇 (法人理事・公共政策学部教授)

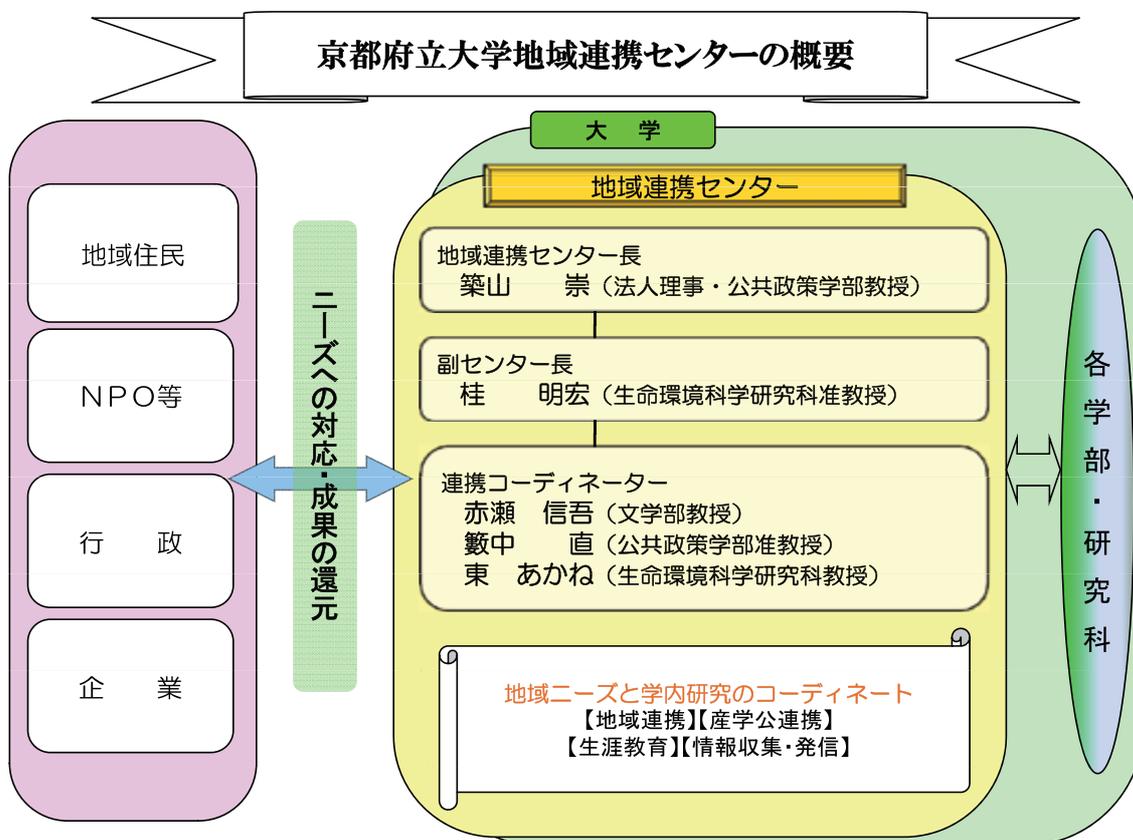
本年4月、京都府立大学における地域連携及び産学公連携の総合窓口として、地域住民、NPO、行政、企業等との連携を深め、地域の文化及び産業の振興並びに地域社会の発展に寄与することを目的として、「京都府立大学地域連携センター」を設置しました。

センターでは、各学部（研究科）にコーディネーターを配し、学部・研究科の研究成果と地域ニーズとをつなぐ総合窓口として、学際的な地域貢献活動を展開していきます。これまで地域学術調査研究センターが担っていた機能（地域社会の諸活動に対する専門的な支援や地域課題に係る調査研究の調整、受け入れ、民間等との共同研究及び受託研究の調整・受け入れ）に、生涯教育委員会で行ってきた、生涯学習事業の企画立案及び実施に関する活動を加え、さらに、地域連携及び産学公連携に関係する情報の収集及び発信に関する機能を強化していきたいと考えています。

5月には、センター発足にあわせて、地域の課題に取り組む府民の皆さんの活動を支援するための共同研究「地域貢献型特別研究（ACTR）」を実施することとし、研究テーマを一般公募しました。これには、約40件の応募があり、採択研究については、それぞれ研究を始めており、相談・助言活動も行うこととしています。

また、6月には、本年2月に連携協力包括協定を結んだ宇治田原町で、協定締結記念行事として開催した「お茶と文化」をキーワードにしたシンポジウム、9月には本学文学部と開催した「源氏物語千年紀記念フォーラム」等、センターの活動をPRすることができました。さらに本年12月には、京都府と連携し、「公共政策学部開設記念府民公開講座」、「自然ふれあいシンポジウム」等の準備を進めています。

企業など民間組織、京都府及び府内市町村との連携、情報発信についても、産学官連携推進会議への出展、ホームページの充実などの取り組みを進めており、京都府立大学法人の中期目標・中期計画に掲げられている諸取り組みを通じて、府立大学の存在感が高まるよう、力を注いでいきたいと考えています。



【連絡先】 〒606-8522 京都市左京区下鴨南木町1-5 京都府立大学地域連携センター事務局(京都府立大学事務局企画室) TEL:075-703-5147 FAX:075-703-5149 E-mail: rcenter@kpu.ac.jp

## 行政との連携

### 宇治田原町との連携

本学と宇治田原町は、これまでの永谷宗圓茶俳句賞の創設（P 8に掲載）、雲南農業大学との交流、町保育園での食育関係の調査等に係る連携実績を踏まえ、連携協力を更に進めるために、平成20年2月26日に包括協定を締結しました。

### 府立大学に期待すること

宇治田原町長 奥田 光治



今後のまちづくりを担う人材育成や複雑化・多様化する行政課題を解決するためには、「知」の宝庫である大学や各種研究機関との連携が重要なファクターとなっています。

現在、府立大学には、森林資源の有効活用や食育に関する共同研究などを実施いただいておりますが、府立大学との連携協力包括協定締結により対等な立場で、双方の持つ資源を有効活用する取り組みがスムーズに進むようになったと思っています。

今後とも府立大学との連携を深め、「大学連携による特徴ある自治体の創造」を目指すとともに、行政主導の関わりだけではなく、大学と地域住民、地元企業の主体的交流から、まちをあげた連携に発展することを期待しています。

### 宇治田原町森林資源の有効利用を目指して

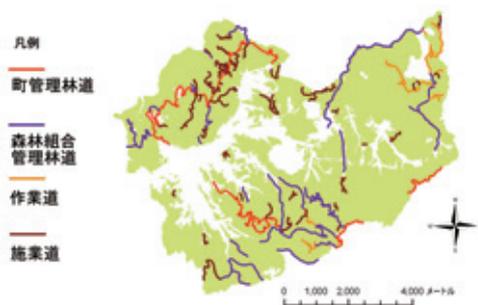
生命環境科学研究科 教授 田中 和博

地球温暖化、原油高騰、世界同時不況、食の安全などの問題が生じており、私たちは20世紀型の生活を見直す必要に迫られております。これからは地産地消の考え方にに基づき、持続可能な社会を構築していくことが必要です。

本学は平成20年2月に宇治田原町と連携協力包括協定を締結しました。森林計画学研究室では同町ならびに同町森林組合と協同で、同町森林資源の持続的な有効利用について調査・研究をしております。宇治田原町は「日本緑茶発祥のまち」、「茶文化のまち」として有名ですが、茶葉の乾燥にも大量の化石燃料が使われています。そこで、同町内から算出される間伐材等を木質バイオマスエネルギーとして有効利用することができるようになれば、森林

の整備が進むとともに、石油の節約にもつながります。木材は再生産が可能な資源であり、また、カーボンニュートラルな資源ですから、その有効利用は地球温暖化の防止にも貢献することになります。

今年度は基礎研究として、同町の森林資源の現状について調査・研究をしております。宇治田原町には森林が約4,400haあり、同町の面積の約75%を占めています。しかし、林道から遠いところに位置する森林は、搬出コストが高くつくことから利用が難しいです。現在、林道・作業道沿線に位置する森林の資源量や成熟度について調査しており、そのデータを基に、今後、持続可能な年間利用可能量について査定をしていく予定です。



宇治田原町の路網図

### ふるさと共援組織の活動と研究

生命環境科学研究科 助教 中村 貴子

住民の50%以上が65歳以上の地域は、京都府内で141集落もある。路側帯の草刈等生活共同活動の衰退はもとより、耕作放棄地の増加が課題である。地域資源を活かした起業や人づくりの機会を地域と大学等で共に創る組織が「ふるさと共援組織」である。京都府立大学は、宮津市の2つの旧村「世屋」「日ヶ谷」との協定を9月13日に結んだ。京都府立大学のメンバーは、宮崎猛（代表）、東あかね、中村佐織、宗田好史、深町加津枝、中村貴子である。

世屋には、高齢化率80%以上と高いが元気な集落があり、自給自足に近い生活が営まれている。そこに見られる伝統的な技術と食生活を研究し、そうした内容を生かした起業等を進める。また日ヶ谷には、評判の高い畑作物があること、宮津市の伝統行事を支える加工品（稲ワラ細工）づくりがなされてきた地域であることがわかり、こうした取組をボランティア的に支えつつも、起業に結びつけていきたい。なお、京都府内ではこうした活動が、現在8地域で進められている。今後の活動のあり方と地域への支援方策について京都府と他大学との共同研究を進める。



府内の地域振興や産業・文化の発展等に貢献することを目的として取り組んでいる地域貢献型特別研究（ACTR）の平成19年度の成果から

## 京都府下における精神障害者・家族の地域生活ニーズ及び生活支援プログラムのあり方に関する研究

公共政策学部 准教授 山野 尚美

本研究では、山城北保健所管内（宇治市、城陽市、八幡市、京田辺市、井手町、宇治田原町）の精神障害をもつ方を対象とする質問紙調査を実施し、地域生活支援サービス提供の基礎となる、当事者のニーズの把握を試みた。調査の対象は、自立支援医療（精神通院）制度を利用している15歳以上の方であって、同管内の精神科医療機関および施設を利用している方とした。調査実施期間は、2007年10月5日から同年12月15日までとした。回収数は310票（回収率51.6%）であり、このうち271票を有効票とした（有効回収率45.1%）。

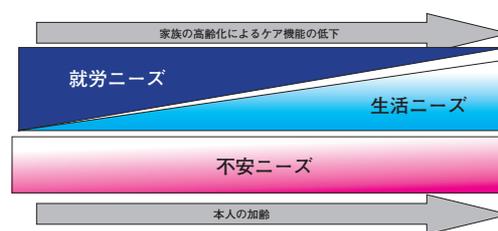
調査結果から、地域で生活する精神障害者の困りごとは、「余暇の過ごし方」「制度利用情報の悩み」「病気の悩み」「就労の悩み」「マネジメントの悩み」の5つのグループに、また地域生活ニーズは「不安相談ニーズ」「生活ニーズ」「就労ニーズ」の3つのグループに類型化された。

「生活ニーズ」については、単身、高齢、男性の場合において、高いという特徴が示されると共に、「就労ニーズ」については、若い年齢層（10代～30代）において高いことが明らかになった。また「不安相談ニーズ」については、年齢による特徴的な差が見られなかったが、これはむしろ年齢にかかわらず表出されるものであると考えられる。これらの特徴は、とりわけ中・長期的な個別支援プログラムの内容について検討する際に、有効な情報として活用されることが見込まれる。

本研究の成果は、山城北地区精神保健福祉ネットワークの活動を通じて、山城北保健所管内における精神障害者の地域生活支援サービスの一層の充実化に寄与するとともに、他地域においても研修や報告書の配布等を通じて、広く活用されているところである。

### 【研究メンバー】[カッコ内は研究時のもの]

東あかね（人間環境学部 教授・分担研究者）、姫野紀代子（京都府精神保健福祉総合センター 相談員・研究協力者）、中根成寿（福祉社会学部 講師・分担研究者）、野田 恵（井手町保健所 相談員・研究協力者）、光井 貢（山城北保健所 相談員・研究協力者）、山野尚美（福祉社会学部 准教授・研究代表者）



ニーズの3類型のモデル図

## 「日本と中国の古典演劇の比較研究」について

文学部 教授 小松 謙

平成19年度にACTRに採択された「日本と中国の古典演劇の比較研究」は、日本と中国の古典演劇、特に能と現存する中国最古の演劇である崑曲を比較することによって、能を世界演劇の中に位置づけることを目的とするものです。メンバーは小松のほか、文学部の山崎・池田両教授、京都大学の赤松紀彦准教授、仏教大学の野間正二教授です。演じ方と舞台形式の比較という趣旨に基づいて、本年2月16日、金剛能楽堂で日中演劇シンポジウム「しらべとしぐさ」を開催しました。

まず小松が趣旨を説明し、続いて山崎教授・赤松准教授の解説をまじえつつ、能楽師山崎芙紗子氏と日本崑劇之友社の前田尚香氏の実演により、さまざまな「しぐさ」比べを行いました。その後、崑曲の音楽と楽器の解説に続いて、崑曲『牡丹亭記』『尋夢』が上演されました。続いて能楽の囃子方の方々から楽器をご解説いただいた後、能楽「葵上」の解説と、その後半の実演となりました。最後の総合討論では、ユネスコ北京事務所の青島泰之代表、中国総領事館の李哲領事からご挨拶をいただいた後、活発な議論を展開しました。当日は超満員の盛況で、アンケートでは、ほとんどの方から「よかった」という評価をいただきました。京都でも由緒ある金剛能楽堂において、京都と深い関わりを持つ能楽と中国演劇の関係について、実演を交えて比較するという他にほとんど例のない試みだったことが、ご好評をいただいた理由かと思えます。



崑曲『牡丹亭』より「尋夢」

この成果は、とりあえず報告書にまとめましたが、一般の方も分かりやすいように、写真を多数掲載した本を制作中で、今年度の内には刊行する予定です。またお読みいただければ幸いです。

## 産学公連携

### 生命環境科学研究科の産学連携への取り組み

生命環境科学研究科長 久保 康之

近年、大学と社会との連携が深まり、大学の研究・教育活動の結果生じる所産を広く大学の内外に還元する責務がより大きくなってまいりました。生命環境科学研究科は新たな研究科の設立に合わせて、社会との連携に関して積極的な取り組みを進めています。本年、6月14～15日、国立京都国際会館において、第7回産学官連携推進会議が開催されました。この会議に研究科として例年を大きく超える7研究室の研究成果をブース出展し、社会貢献・



産学連携の意識の高まりが具体的な形で示されました。当日は100名を超える来場者があり、それぞれのブースで熱心な意見交換が行われました。一例として塚本康浩教授の「ダチョウの卵を用いた高感度特異抗体の低コスト・大量製法の開発」に関する研究（P11に掲載）はマスコミ等でも大きく報じられ、生命環境科学研究科の産学連携のトップランナーとして期待されています。今後も研究科として産学連携の機会を積極的に活用し、「第12回異業種京都まつり」「2008異業種交流・農商工連携フォーラム」などへの参加を予定しています。

### 京都植物バイテク談話会の取り組み

生命環境科学研究科 教授 椎名 隆

京都植物バイテク談話会は、京都府立大学、京都府農業資源研究センター、京都産業大学および京都・関西地域の企業に所属する植物科学関係の研究者、大学院生を中心に組織した研究交流組織です。植物バイオテクノロジーという柱を中心に、所属や出身などの枠を超えた集まりになっています。現在、正会員27名、企業会員4社、学生会員70名で、2006年10月の創会以来、数ヶ月おきにこれまでに9回のシンポジウムを開いてきました。学際性を重視したユニークなテーマ設定が評価され、新聞等でも取り上げられています。また、チャレンジポスター企画などにより、大学院生の教育の場としての役割も担っています。一例を挙げると、第8回シンポジウム「経口ワクチン開発の現状と将来 ―実用化のための新しい戦略をさぐる―」では、植物科学分野からはもちろん、分野横断的に、医科学、食品科学、免疫学のそれぞれの専門家に集まっていただき、植物を利用したいわゆる“食べるワクチン”の開発と実用化の戦略について、熱のこもった議論が行われました(写真)。手弁当での活動ですが、その機動力を活かして、産学連携を基盤にした府立大学発の新しい研究展開の後押しをしていきたいと思っています。



## ニューフェース

文学部 欧米言語文化学科

講師 横道 誠 (よこみち まこと)

＜主な研究領域＞ 18世紀ドイツ語圏、現代視覚文化

18世紀ドイツ語圏では、現代文化の成りたちに大きな影響をあたえる言論・思想が誕生しました。南洋調査の文献、空想的宇宙旅行記、初等教育の教科書、国粹主義の文書などを題材として、当時の文化的背景と、その現代にまで続く歴史的意義を研究するのが当面のテーマです。今後は、現代の政治状況・メディア状況を踏まえた視覚文化論の立場からも同じ問題領域に取り組んでいきます。

### 平成20年4月着任の教員の紹介

文学部 歴史学科

講師 上杉 和央 (うえすぎ かずひろ)



＜主な研究領域＞ 歴史地理学

京都大学総合博物館より異動してきました。現在は下記の3つのテーマを中心に研究を進めています。1: 新たな文化財として注目を集めている「文化的景観」について、具体的な実地調査とともに、人々の場所認識の形成という視点から分析する。2: 江戸時代の古地図・地誌・名所記などを用いて、当時の人々の地理的知識の形成を検討する。3: 戦後沖縄の慰霊碑・慰霊祭の成立と変遷について資料収集と聞き取り調査を行い、場所の記憶と戦争(沖縄戦)の関係を読み解く。よろしくお願ひします。

## 生涯学習事業

### 文化の場・学習の場としてすべての人に開かれた大学をめざして

今年度の生涯学習事業は、春と秋に開催している公開講座「桜楓講座」をはじめ、リカレント学習講座、演習林野外セミナー、農場ユークルチャーデー、市町村との共催講座「地域文化セミナー」、新・SKY大学のほかに、生まれ変わった京都府立大学を知っていただき、より身近に感じていただくため、新しい公開講座やシンポジウムを加え充実した内容でお送りしています。

#### ○桜楓講座 今年度実施されたテーマを紹介します

- Aコース **近世京都の女流書家** 文学部 母利司朗教授  
 Bコース **4億年前から続く『共生』を考える** 生命環境科学研究科 石井孝昭教授  
 Cコース **福祉からのコミュニケーションづくりもう少しあなたの生活を豊かにしてみませんかー**  
 公共政策学部 中村佐織教授  
 Dコース **私たちの食環境と健やかな暮らし** 生命環境科学研究科 東あかね教授

#### ○学部主催シンポジウム・新「文学部」発足記念シンポジウム「ことばと異文化」

4月27日にハートピア京都において、ロバート・キャンベル東京大学教授による基調講演「日本語、新大陸を発見するー米欧回覧実記における言葉と異国風景」の他、青木博史准教授（日本・中国文学科）による「異言語接触と日本語の拡張」、岡本隆司准教授（歴史学科）による「『大君』の消滅をめぐる世界ー幕末維新と東アジア」、金澤哲教授による「漢字の衝撃ーエズラ・パウンドと西洋の新しい詩」の3本の講演および総合討論が行われました。

また、5月には、京都府立総合資料館と共催で「古典籍グルメ・書物グルメのための名品展」と「古典籍グルメ・書物グルメのディスカッション」、9月には、「源氏物語千年紀記念フォーラム『源氏物語』へようこそ！」が開催されました。

\* 12月には公共政策学部開設記念府民公開講座や自然ふれあいシンポジウムが開催されます。→P 12

#### 大学の施設を府民の皆さんに開放しています。

**附属図書館**：図書館所蔵資料の閲覧及び複写（貸出は行っていません。）

開館時間：9時～21時（4月から21時まで延長しました。）土、日、祝は閉館

平成19年度は延べ517人にご利用いただきました。

\*利用の詳細については、附属図書館（TEL 075-703-5130）までお問い合わせください。

**運動施設**：開放日時を設定し、グラウンド、硬式テニスコートの貸出をしています。なお、グラウンドについては、10月から月1回日曜日の終日開放を実施しています。

平成19年度、グラウンドは104日で12,821人、テニスコートは89日で1,609人が利用。

\*利用の詳細については、管理課施設管理担当（TEL 075-703-5109）までお問い合わせください。

## ニューフェース

### 平成20年4月着任の教員の紹介

#### 公共政策学部 公共政策学科



教授 **大島 和夫**（おおしま かずお）

<主な研究領域> 民法、公共政策、法と経済学

今、年金や介護保険の見直しが議論されています。一方では、20代の無年金者の増加が問題になっています。医療、年金、福祉の制度は、個人が安心して生活できるという面だけでなく、社会における相互連帯、相互扶助という思想と理念も基礎になっています。しかし、現在の日本社会では、後者の思想は決して強くありません。人々が尊厳をもって働き、安心して暮らせる社会のあり方を考える。それが現在の私の研究テーマです。

#### 公共政策学部 公共政策学科

准教授 **藪中 直**（やぶなか ただし）

<今後の抱負・研究テーマ>

昨年度まで、長らく京都府職員をやっており、公共政策学部の創設に伴い、本学と京都府行政との連携・協働を進めていくための「特別教員」として4月に着任しました。これまでに培った、地方自治実務の経験を基に、本学部の目指す「地域公共人材の養成」に少しでも貢献できればと思いますとともに、「大学と行政・地域との連携、協働のあり方」という研究テーマに自分なりに携わり、なんらかの成果を得たいと考えています。

## 中学生・高校生との交流事業

### 洛北高校とのスーパーサイエンスハイスクールプログラムの 共同実施について

生命環境科学研究科 細胞動態学研究室 准教授 佐藤 雅彦

8月4日(月)～8月8日(金)の5日間の日程で、洛北高校のスーパーサイエンスハイスクールプログラム (SSH) 事業を行いました。洛北高校SSH事業は、「最先端の科学を体験しつつ、設定したテーマの下、大学や研究機関との密接な連携による継続的な探究活動を進めることにより、自然科学に造詣が深く主体的に研究を進めようとする態度を身につけ、将来研究者となる基礎を育成する。」という目的があります。具体的には、2年生が5名のグループを組み、京都市内の様々な大学の研究室に行って、実際に研究を行うというプログラムです。初日の午前中は、京都府立植物園でさまざまなトウガラシ品種を採取した後、ゲノムDNAの単離を行いました。2日目以降は、単離したゲノムDNAからPCR法を使って特定のDNA配列の増幅、プラスミドへのサブクローニング、大腸菌への形質転換、DNA配列の解析、系統樹の作成など、実際の研究の現場で行う実験を高校生たちの手で行いました。参加した5名の高校生は、ピペットマンをはじめとした様々なバイオテクノロジーに関連する機械の操作の連続に戸惑いながらも何とか実験をこなしていました。今回の経験が彼らの進路を決定する上での糧となることを願って実習を終了しました。



DNA 単離実験

#### 「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～」を実施!

この事業は、小・中・高校生の皆さんに大学の研究室を訪問してもらい、大学で行っている研究の成果を実際に見て、聞いて、実感していただくという企画です。(独立行政法人日本学術振興会補助事業)

- 12月20日(土)には、中学生を対象に「京都の食文化に学ぶ健康食～五味・五色・五法を五感で味わう～」をテーマに、一汁三菜を活かした松花堂弁当を作り、味わいながら、京都の食文化から健康食について楽しく学ぶというプログラムが実施されます。(詳細は、本学ホームページで紹介しています。)
- 中学生・高校生対象の「陸上植物と光エネルギー利用システムの進化を考える」は、7月31日、8月1日に、高校生対象の「メアリーポピンスと学ぼう～英語とイギリス文化～」は、9月6日に実施しました。

## ニューフェース

### 公共政策学部 公共政策学科

准教授 窪田 好男 (くぼた よしお)



<主な研究領域> 政策デザイン論、政策評価論、政策学教育方法論  
政治学・経済学・法律学・社会学・社会調査論等の応用的分野・学際的領域と考えられてきた公共政策学を

独立した新しい学問領域として確立し、学問によってよりよい社会を実現することを目指して研究・教育に従事しています。公共政策の企画立案と評価、すなわちよい政策のつくりかた、適切な実施、必要に応じたフィードバックと終了の理論と国や地方自治体で実行可能な具体的方法の研究を専門としています。

### 平成20年4月着任の教員の紹介

### 生命環境科学研究科 応用生命科学専攻

准教授 沼田 宗典 (ぬまた むねのり)



<主な研究領域> 有機化学、超分子科学、機能性ナノマテリアル  
分子や高分子をナノメートルレベルで規則的に組織化させ、様々なナノ構造を創製する研究を行っています。最終的にはそれらナノ構造体を実用的なナノマテリアルやナノデバイスとして利用することを目指したいと考えています。生体分子あるいは生体高分子の自己組織化は生命活動を根底から支えている極めて重要な現象です。府立大ではこうした生体分子あるいは生体高分子の自己組織性に着目し、人工分子の組織化に積極的に利用する研究も行っていきたいと考えています。

## 各学部・研究科の取組

### 文学部

#### 茶の町の歴史と文化とともに—永谷宗圓茶俳句賞との関わり—

文学部 日本・中国文学科 教授 母利 司 朗

昨年の春、茶業を町の中核産業とする宇治田原町から、茶に関わる俳句賞を設立したいので一度相談にのっていただけませんか、という申し出が本学にありました。ほどなく奥田町長はじめ町側の関係職員が来学され、俳句賞設立の趣旨その他に関わる説明や意見交換の後、本学教員がその専門性を活かして俳句賞の選考に協力できるのではないか、については筆者が選考委員の一人に加わっては、という話になりました。

正直な感想は「ありがたいこと」の一言。日本文学の教育・研究に携わっている者にとって、「地域貢献」への具体的な取り組みのきっかけを見つけ出すのは、実はかなりむづかしいのです。残念ながら、組織として「地域貢献」に取り組むという大がかりな方策を採ることはできませんが、良いチャンスであることにかわりはありません。江戸時代の俳句を授業でとりあげたり論文を書いたり、ともかくも俳句と関わってきた専門が活かせる、という気持ちの一つ。もう一つは、今まで縁のなかった自治体の皆さんと関わることができる、という楽しみがありました。

現在は、数多くの俳句賞が、企業や自治体その他様々な所で企画されています。宇治田原町の「永谷宗圓茶俳句賞」は、江戸時代の半ばに、同地の永谷宗圓（今の永谷園はその一族）が新しい緑茶の製法を考案し、現在の澄んだ緑色の煎茶の原点となった歴史に鑑みて、茶文化を盛り上げていこうとする流れの中で企画されたと聞きます。選考委員会は、俳諧研究者の立場から神戸大学名誉教授堀信夫先生と筆者。町側からは商工会長や教育長をはじめとした有識者が委員となり、町をあげての体制が用意されていました。

応募期間の短さにもかかわらず、一般・小中学生の部ともに予想していた以上の投句があり、安堵。第一次候補の選を皮切りに、最終的に最優秀・優秀・佳作の案を委員長と筆者の間で決定しました。その案をもとに選考委員会で協議。候補句に詠み込まれた茶業関係の言葉について、筆者には予想もしていなかった質問が町側の委員から出たりと、中身の濃い充実した検討がなされ、原案通り受賞作品が決まりました。二年目にあたる今年度は投句の激減を危惧していましたが、なんと去年に倍する投句が全国からあり、うれしいやら悲しいやらのかつい選考がちょうど今終わったところです（広報が出るころには受賞式も終わっているでしょうか）。さて来年はどうなることやら。



平成20年度表彰式

### ニューフェース

生命環境科学研究科 応用生命科学専攻

准教授 倉持 幸司（くらもち こうじ）



＜主な研究領域＞ 有機合成化学、ケミカルバイオロジー

有機合成化学を基盤にして、生物学的研究に発展する研究を行いたいと考えています。これまでの研究で培った有機合成化学、ケミカルバイオロジーの知識や技術を活かし、有用な機能性分子を設計・合成し、また生物研究に応用することを目標にしております。

1. 生物活性物質の作用機構を解明するための機能性分子の創製、2. タンパク質の機能解析に応用する選択的阻害剤の創製を出発として、生命環境分野に研究を展開したいと考えております。

### 平成20年4月着任の教員の紹介

生命環境科学研究科 応用生命科学専攻

講師 井上 亮（いのうえ りょう）

＜主な研究領域＞ 腸管免疫

動物の腸管は全免疫臓器の中で外界からの抗原に最も頻繁かつ大量にさらされています。そのため、腸管では特異な免疫システムが発達しており、近年では腸管免疫系が食物アレルギーや花粉症にも関係していると報告されています。私は、この特異な免疫システムがどのように発達するのか、またどのような外的因子の影響を受けるのかを明らかにすることを目的に研究を行っています。それらの情報を駆使し、様々な疾病を予防・治療する方法が提案できればと考えています。

## 公共政策学部

### 戦略的大学連携支援事業（教育研究高度型）の紹介

—地域公共人材のための京都府内における教育・研修プログラムと地域資格制度の連携開発—

公共政策学部 公共政策学科 准教授 窪田 好男

本年4月に発足した公共政策学部は、「福祉社会をめざし公共政策を拓く」をモットーに、実践的政策力を身に付けた人材の育成を目指した教育とビジョン・政策発信を目指した研究に取り組んでいます。このたび本学は平成20年度～22年度を期間とする文部科学省の戦略的大学連携支援事業の採択を受けました。ここではその内容を紹介します。

取組の名称は「地域公共人材のための京都府内における教育・研修プログラムと地域資格制度の連携開発」です。本学は連携校で、代表校は龍谷大学です。他には同志社大学、仏教大学、京都橘大学が連携校で、京都大学と立命館大学がオブザーバー校です。府内の政策系の学部・大学院全てが参加する体制となっています。さらに京都府、京都市、きょうとNPOセンター、京都商工会議所、京都経済同友会などが関係団体として協力します。

取組の概要は以下のとおりです。

キーワードである地域公共人材は、地域の公共的活動を産官学民のセクターの壁をこえて担う人材と定義されます。要は京都という地域をよくするという意思とそれを実現する能力を有する人材、明日の京都を担う人材です。そのような人材を政策系の学部・大学院で育成し、そうした人材が京都の産官学民の各セクターに進出して活躍し、よりよい京都を作り上げていくというイメージです。もちろん国や世界と切り離されて京都が存在することはないので、育成される人材は日本の、世界の産官学民の各セクターにも進出していくことが期待されています。

政策系の教育研究の悩みは関係する学問領域や問題領域が広いことです。そのため1つの新しい学問分野としてコアを形成すること、関係する学問領域や問題領域の全てをカバーする教員をそろえることが困難な課題となっています。京都の政策系学部・大学院は以前から積極的な連携を図ってきました。公共政策学の分野では先進事例として京都は注目されています。そうした実績を活かし、京都の政策系の学部・大学院が連携して公共政策学の共通カリキュラムや人材育成のための研修プログラムを作成しようというのが今回の取組の概要です。ただし単なる協働では各校の特色が活きませんので、協働と競争をキーワードに、参加各校がそれぞれ独自の特色をつくり、相互に提供し合うことで連携の実が発揮されると期待されています。

今年度の活動としては、事務所の開設とスタッフの公募、アメリカやイギリスへの海外調査、参加各校における研究会の開催等が予定されています。関係団体では、京都市が職員採用試験で新たな試験区分として全国初の上級Ⅱ（大学院生）を設けるといった動きが見られます。

本学としては、こうした流れに積極的に参加しつつ、京都府との関係を活かして独自性を発揮して流れをリードすることが望ましいと考えられます。関係各位の積極的なご支援・ご協力をお願い申し上げます。

## ニューフェース

### 平成20年4月着任の教員の紹介

生命環境科学研究科 応用生命科学専攻

講師 和田 小依里（わだ さより）

<主な研究領域> 食品因子による  
抗腫瘍効果

ビタミンEであるトコトリエノールは経口摂取にてマウスの肝癌、肺癌の発生率を減少させること、細胞投与にてアポトーシスを引き起こす

ことを確認し *in vivo*, *in vitro* の両方で抗腫瘍効果を認めました。がんは依然として死因の第一位であり、がん予防は人々のQOLの改善や医療費の削減に大いに貢献すると考えます。そこで、臨床医の経験も生かして発がん予防に関する研究を引き続き中心に行っていきたいと考えております。

生命環境科学研究科 応用生命科学専攻

講師 斧田 宏明（おのだ ひろあき）

<主な研究領域> 無機材料化学

身の回りの材料の性能を向上させる

ことは従来から求められていましたが、近年は機能性に加えて環境負荷の少ない材料の開発が求められてきています。生体材料から工業材料

まで幅広く用いられている無機リン酸塩に着目して、それらの合成方法や条件を検討するとともに、触媒、吸着剤、顔料などとしての機能性を調べています。また、廃棄物の再資源化など化学からみた環境負荷の低減も検討しています。

## 生命環境科学研究科 庭園文化と緑環境に恵まれた京都におけるランドスケープ研究

生命環境科学研究科 環境科学専攻 教授 下村 孝

庭園に端を発し、都市緑化や生物多様性の保全にまで領域を上げたランドスケープ研究の場として京都は最適の地である。平安時代以降の遺産である公開庭園からの情報発信の実態や維持管理のあり方、町家における坪庭・前栽の役割、壁面緑化や屋上緑化など住まいの内外における緑の利用実態など、これまで、京都をフィールドとして多様な領域に研究分野を拡げてきた。ここでは、最近、学会誌に発表した屋上緑化に関するいくつかの論文の概要を紹介する。

・快適な屋上緑化空間：地球温暖化とヒートアイランド現象による都市の高温化を防ぐために、屋上緑化と壁面緑化に期待が寄せられている。京都府でも地球温暖化対策条例により、ビルの新築・改築の際に屋上緑化が義務化された。屋上緑化による緑化面下の断熱や階下の空調エネルギー軽減に関する研究結果は多数報告されている。しかし、屋上は人が出入りすることが前提であり、緑化された屋上空間は生活空間として利用できることが望ましい。緑化された屋上も、太陽光の直射を受けると快適な空間とはいえない。高木の植栽による緑陰が望まれるが、積載荷重や防風などの課題があり、困難である。夏季にも快適に過ごせる屋上空間を目指し、芝、パーゴラ（例えば日本の藤棚のようなもの）、緑化無しの屋上で気象要素と被験者による申告実験を行った。つる植物で被覆されたパーゴラの下では、夏季にも不快な暑さを感じることなく快適に過ごせることを明らかにした。この実験では、京都市内で屋上緑化が施されている施設の屋上を借用した。

・緑化された屋上が休憩場所として利用されるための要件：屋上緑化されたビルで働くワーカーが、屋上を休憩場所として有効に利用するのに必要な条件をアンケート調査により調べた。その結果、多様な緑による植栽が望ましいとする他、座するための施設、雨よけ、日よけなどが必須であるとの回答を得た。ここでも、京都市内の施設にも協力を得た。今後、京都で、ビル新築時に義務化された屋上緑化を進めるための資料となることを期待したい。

・京都らしい屋上緑化を探る：京都は長い歴史の中で歴史的景観が保全されてきた観光都市でもある。緑化された屋上とその屋上からの景観にも配慮が必要である。西陣、寺社のある山裾、鴨川と東山、四条通の繁華街など京都の代表的な景観と芝生、洋風庭園、和風庭園などの屋上緑化を組み合わせた画像を見せて被験者による評価実験を行った。いずれの背景でも、和風庭園の屋上緑化（図参照）が京都らしい、好ましいなどで高い評価を得た。これらの結果は9月19日の京都新聞、日本経済新聞にも紹介された。今後、より多様な庭園様式を用いた詳細な研究も予定している。以上、京都における屋上緑化の普及に向けた資料となる他、この研究分野に新しい視点を提供し得たと自負している。

当研究室の研究概要はホームページ（[http://www2.kpu.ac.jp/life\\_envirou/u\\_landscape\\_garden/](http://www2.kpu.ac.jp/life_envirou/u_landscape_garden/)）を参照願いたい。



図 評価対象画像、寺社のある風景を背景とした和風庭園風屋上緑化

### ニューフェース

生命環境科学研究科 応用生命科学専攻

助教 青井 渉（あおい わたる）

＜主な研究領域＞ 運動栄養学、体力科学

生化学的、分子生物学的手法や生体情報計測等の手法を用いて、生活習慣病予防における運動効果を科学的に解明するとともに、身体活動水準を反映するバイオマーカーの探索を行い、効果的かつ安全な運動および食事法について提案していきます。また、加齢にもなう筋機能低下の防止、さらにはアスリートにおける競技能力の向上を目的とした運動や栄養、補助手段（サプリメント等）の最適な処方に関する研究を進めたいと考えています。

### 平成20年4月着任の教員の紹介

生命環境科学研究科 環境科学専攻

准教授 河合 慎介（かわい しんすけ）

＜主な研究領域＞ 建築計画学、建築設計学

快適で合理的な生活空間の構築を目指し、行為・行動や運用プログラムなど空間の使われ方を解析することにより、空間の機能評価や使われ方と空間構成の最適化の研究を行っています。今後は、これまで同様フィールドワークを大切に、FMやPOEの観点、また地域性や生活様式の観点を加えながら新しい評価方法を試み、実践的なプロジェクトへ知見や計画を展開させていきたいと考えています。

## 防げ！鳥インフルエンザ。ダチョウが人類を救う！

生命環境科学研究科 動物衛生学研究室 教授 塚本 康浩

京都府立大学が新型インフルエンザ防御マスクの開発に成功！今年7月2日に文部科学省・科学技術振興機構がプレスリリースし、読売新聞、朝日新聞、毎日新聞そして京都新聞などの有名紙がこのような見出しの記事を掲載していただきました。NHKのニュースでも幾たびも放送され、12月末頃にも特番が予定されています。新設されたばかりの動物衛生学研究室からの情報発信ということになります。

高病原性鳥インフルエンザは1997年に香港で確認され、日本でも2004年に京都府内の養鶏場でニワトリが大量に死にました。WHOによると、これまでに、毒性の強いH5N1型に感染した人は、15ヶ国で387人、そのうち245人が死にました。日本での感染者は出ていませんが、爆発的流行（パンデミック）に備えた対策を始めています。その一つがマスクの備蓄です。

インフルエンザウイルスの場合ヘモアグリチニン（HA）と呼ばれる蛋白質をブロックすると、ウイルスの細胞への吸着・侵入が抑制され、結果的に感染を防ぐことが可能です。HAと結合する抗体を作製しておけば、インフルエンザ感染を防ぐことも可能です。私たちは、ダチョウに高病原性鳥インフルエンザウイルスH5N1のHAを注射し、抗体を大量生産する技術を開発しました。使用したHAは、鳥インフルエンザに感染したベトナムの少年から分離したH5N1ウイルスの遺伝子情報を基に作製したものです。HAを注射すると、ダチョウ体内に抗体が産生され、さらに均一で品質の優れた抗体が卵黄の中に移動しました。つまり、卵を使えば抗体を簡単に得ることが出来ます。ダチョウは世界で一番大きな鳥類で、寿命は60年以上、約40年間産卵します。1羽の雌ダチョウが年間で約100個産卵します。私たちは1個の卵より4gの抗体の作製法を開発に成功しました。1羽のダチョウより年間で400gの抗体が得られます。これはウサギ約800匹分の抗体量になります。しかも4千分の1ほどの低コストで作製することが可能になりました。作製したダチョウ抗体は鳥インフルエンザH5N1の感染を効率よくブロックすることから、抗体を調湿性不織布に担持させた“ダチョウ抗体マスク”を開発しました。マスク表面に170兆個のダチョウ抗体が存在しています。ダチョウ卵1個から8万枚分のマスクが創製されます。ウイルス飛沫が侵入しても抗原抗体反応によりウイルスの感染力が失われるため、感染リスクが激減されます。マスクの機能は鳥インフルエンザ罹患ニワトリを用いた空気感染実験により実証しました。



この開発を基に6月末に精華町に京都府立大学発ベンチャー会社“オーストリッチファーム”を設立し、共同企業と共にダチョウ抗体マスクの大量生産に着手しています。すでに大手企業や行政、医療機関からの注文を得ているところですが、引き続きダチョウ抗体の有用性をこの京都から世界に発信していきたいと考えています。

### ニューフェース

### 平成20年4月着任の教員の紹介

#### 生命環境科学研究科 環境科学専攻

講師 田淵 敦士（たぶち あつし）



<主な研究領域> 木質構造、土壁の耐震性能評価に関する研究

日本には多くの木造建築があり、世界に誇るべき文化として形成されています。一方で、世界で発生する大きな地震の約20%が日本で発生し

ており、阪神淡路大震災以来、木造建築に対する耐震性能への要求も高まってきています。わが国に豊富にある資源である木材を有効に活用しながら、災害に強い建物作りのための研究を進めていきたいと考えています。また、既存の建物においても、手軽に耐震補強を行えるような技術開発にも挑戦したいと思っています。

#### 生命環境科学研究科 環境科学専攻

講師 平山 貴美子（ひらやま きみこ）



<主な研究領域> 森林生態学、森林植生学、保全生態学

森林植生において多様な植物種が維持される仕組みを、個々の植物種の生き方や動きに着目し、フィールドワークや統計学的手法を用いて明

らかにしようとしています。さらに最近では、森林の断片化等が植生の推移に与える影響について、遺伝的側面を含めて評価しようとしています。それぞれの地域の植生や個々の植物についての情報の蓄積は、基礎的な研究への寄与ばかりでなく、より応用的な地球環境変動に対する植生推移予測や植生保全管理手法の提案に繋がると考えています。

## 学生奮闘記 地域のホームページを作成！

本学学生有志が福知山市大江町毛原地区のホームページを作りました

心のふるさと 毛原へようこそ



毛原のホームページ制作は、生活デザイン演習の課題として2回生が考えたホームページ案をもとに、有志が集まった2、3回生の5名で行いました。初めは本格的なホームページ制作の経験を持った人もおらず、本当に自分たちでできるのか、という不安がありました。さらに、毛原を訪れた時に感じた自然の気持ち良さや温かさといった魅力をホームページ上で表現する難しさも感じました。

しかし、そんな不安を吹き飛ばしてしまうくらい毛原は元気でした！むらを盛り上げていこうという地元の方々の熱い思いに後押しされ、また多くの方々に支えていただいて作り上げることができました。見やす

く、わかりやすくするのはもちろんのこと、親しみやすい雰囲気や新鮮な情報を発信できるように意識して作りました。

豊かな自然も美しい棚田も、それを管理し、利用する人々の愛と努力があってこそ輝くものです。そしてたくさんの人々が訪れることで新しい風が吹き、気持ちの良い循環が生まれるのだと思います。これから毛原を訪れる人々と地域の方々をつなぐ糸口になればという思いと、この活動を通じて出会った人々の素敵な笑顔を「毛原のみどころアルバム」に詰めました。「毛原通信」では季節感たっぷりの毛原を味わえます。少しでも興味を持たれた方はぜひホームページを覗いてみてください。

ホームページアドレス <http://www12.ocn.ne.jp/%7Etanada/index.html>

(人間環境学部 環境デザイン学科 4回生 福田 彩)

## お知らせ

### 公共政策学部開設記念 府民公開講座 『京都府大「発」、「公共政策の明日」を拓く』

日時：12月11日（木）15:00～18:00

会場：ハートピア京都（京都市営地下鉄「丸太町」駅下車）

内容：テーマ「分権時代の公共政策の行方～多様な主体による地域ガバナンスのあり方と自治体の役割～」

基調講演 片山善博 慶應義塾大学教授 前鳥取県知事  
座談会

講師 片山善博 慶應義塾大学教授 前鳥取県知事  
猿渡知之 京都府副知事  
高橋彦芳 長野県下水内郡栄村 前村長  
関根英爾 ジャーナリスト(元京都新聞論説委員)  
川瀬光義 公共政策学部教授  
青山公三 公共政策学部教授  
司会 小沢修司 公共政策学部長

### 自然ふれあいシンポジウム

日時：12月20日（土）13:30～16:00

場所：舞鶴グランドホテル（JR西舞鶴駅前）

内容：基調講演 作家 立松和平氏  
「自然とともに生きる」

パネルディスカッション  
「里山文化と地域づくり」

パネリスト

泉 金雄 西方寺平棚田オーナーの会代表  
佐藤 淳 加佐ふるさと塾塾長・環境省自然公園指導員  
中村貴子 生命環境科学研究科助教  
三橋俊雄 生命環境科学研究科教授  
コーディネーター  
築山 崇 地域連携センター長・公共政策学部教授

詳しくは、事務局企画室（TEL 075-703-5147）までお問い合わせください。（どちらも無料です）

## トピックス

三重県伊賀市が松尾芭蕉の顕彰事業の一環として連歌、俳諧、俳句などの俳文学関係著書の中から優秀研究著書に贈る今年度の文部科学大臣賞に、文学部の母利司朗教授の著書『俳諧史の曙』（2007年9月、清文堂出版）が選ばれました。

府大広報 No.159 ー地域貢献特集号ー 京都府立大学広報委員会 2008.11.22 発行  
〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5 TEL.075-703-5147 FAX.075-703-5149  
Email kikaku@kpu.ac.jp